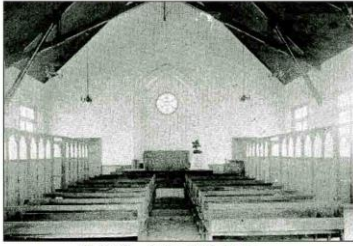


## 「日本基督教団桐生教会教会堂」詳細



教会堂 内部 昭和 5 年



内部 現在



教会堂正面 昭和 5 年



正面 現在

### 所在地域の概要

桐生市は群馬県の東端に位置し、県境を栃木県に接している。古くから織物産業により発展し、江戸時代以降桐生新町（現在の本町）を中心に市街地が形成されている。桐生教会は本町の南側に接する桐生市錦町 1 丁目 994 番地 1 に所在する。かつてこの敷地は市内を流れる渡良瀬川とその支流である桐生川を結ぶ新川河畔の桑畑であった。教会が建設された昭和初期には、北側に樹徳裁縫女学校（昭和 2 年移転、現在の樹徳高等学校）、西側には桐生市新川運動場（昭和 3 年完成、野球場・テニスコート・プール等）、南西側に大和病院（昭和 3 年）などが建設され、急速に宅地化が進んだ。現在は近隣商業地域となっている。

### 日本基督教団桐生教会について

桐生市におけるキリスト教は明治 10 年（1877）に新教（プロテスタント）が入り、次いでギリシャ正教、カトリック教の順に伝えられた。日本基督教団桐生教会は桐生地方に導入された最初の新教教会であり、明治 11 年（1878）境野町に設立され、明治 35 年（1902）に本町 6 丁目に移る。教会創立 50 周年にあたる昭和 5 年（1930）に「新会堂」および牧師の住まいである「牧師館」を予算 1 万円により建設することが決定し、同年 4 月から 6 月にかけて建設工事を実施、落成に伴い同年 7 月 11 日に献堂式が開催されている。

なお、建設にあたり教会の長老であり機業家であった堀祐平氏が現在地に 568 坪の敷地を寄付している。



## 建築物の概要

教会堂は昭和 5 年に建築された礼拝堂と昭和 31 年に増改築された予備室からなる。ゴシック様式を取り入れ、外観では戸口とその両側の窓枠飾り、内装には南側壁面に尖頭アーチ（ポインテッドアーチ）の装飾が施され、正面の妻飾部分には三弁アーチの小窓を開け、バルコニーを付す。玄関上部にはガラス塗料で塗られた色ガラスが使用されている。外壁はモルタル塗りでドイツ壁風に仕上げられ、クリーム色に塗装されているが、予備室の南側のみ掻き落としになっており、塗装も施されていない。これは平成 4 年（1997）の改修工事において外観の塗装を行った際に生じたものと考えられ、施工時期の異なる教会堂、予備室、予備室食品庫西側の出入口部で下地のモルタル塗りが異なっているが、色調は一樣になっていることから伺える。教会堂の外観基礎部分は洗い出し仕上げになっており、壁面の東側 3 か所、西側 4 か所には直角三角形のバットレスが設けられている。会堂は単廊式で内壁はブラウンにペイントされた巾木、腰部は漆喰に濃いグレーのペイント、上部壁面は奥壁が漆喰塗、東西面は薄いグレーに塗装された漆喰塗。小屋組みはシザーストラスとし、天井高のある空間を実現している。

この建物は昭和 19 年（1944）に中島飛行機株式会社の資材置き場として礼拝堂が使用され、昭和 24 年（1949）のカスリーン台風により床上 1 メートルに及ぶ浸水被害があったため、昭和 26 年（1951）に教会青年会による内部壁および天井の塗装工事が実施された。当初から教会堂の内部を衝立により仕切り、礼拝堂と日曜学校教室等で使用する場所に分けるなど使用空間の不足を補っていたことが古写真や文字記録、痕跡から確認できるが、昭和 31 年（1956）には当初からあった南側の予備室を増改築し、24 畳の広さを持つ板の間の予備室と 12 畳の広さで畳敷きの小会議室を設けた。記録によれば他の建物を転用して増築したとある。その後時期不明であるが、予備室はキッチンと書庫の 2 部屋に分割されている。ともに竿縁天井の質素なつくりであり、キッチンの西側には小規模な食品庫と物入を設け、食品庫西側の出入口を牧師館への連絡口とした。

昭和 44 年（1969）には教会堂の維持管理や利便性の向上を図るため内部改造工事が実施された。北側（玄関南側）の約二間を仕切り 3 分割し、中央を玄関ロビー、左右両脇を小会議室兼ナーサリールーム、応接室などに改築し、併せて天井を設け床板を張り替えている。この改修に際しては内部の景観に一体感を持たせるため、共通した色彩やデザインを用いるなど工夫が見られる。

昭和 46 年（1971）に北東側トイレを水洗に改修して以降は、平成 4 年（1992）に比較的大規模な改修工事が実施されている。外観では屋根の鋼板張り替え、外壁塗装を当初と同様にクリーム色に上塗りを行い、内部は照明器具の交換、壁塗装上塗り、内陣部分は壁龕の塗装工事とともに玄関上部と同様の色ガラスが嵌められていた円形窓を塞ぎブリキ製の十字架を設置。壁龕脇左右にある予備室への出入口部にレリーフを取り付け、壁龕を含む南側壁に 3 か所の尖塔アーチが並ぶデザインとしている。南東側に位置する小会議室については床面を下げ、畳敷きから板敷きとし、内部を和室から洋室に改装している。この時に天井板の張り替え、壁・天井のクロス張り、窓をアルミサッシに変更。東側部分の雨戸を廃して直接モルタルを上塗りしている。

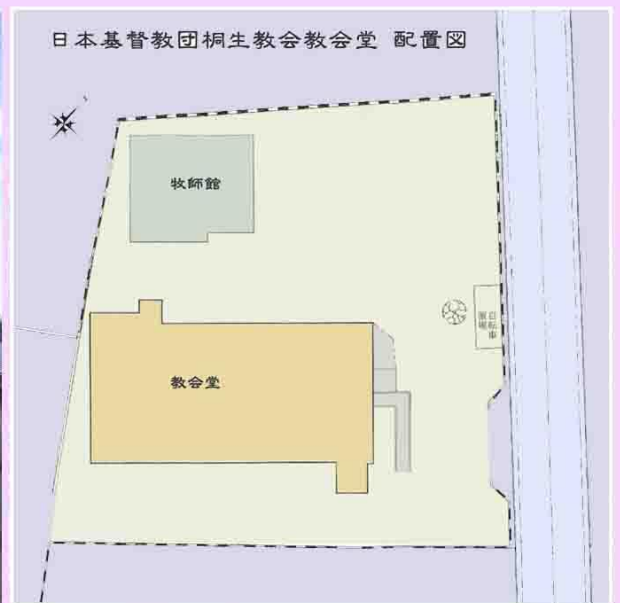
平成 23 年（2011）には男女共用であったトイレを改修するため、応接室の北側を間仕切りし、トイレ西側の壁の一部と和便器を撤去することで新たに廊下を設けている。玄関西側の前室を女性用トイレに改修し、それまで使用していた共用トイレを男性用とした。



教会堂東面



教会堂西面



### 建造物の位置づけ

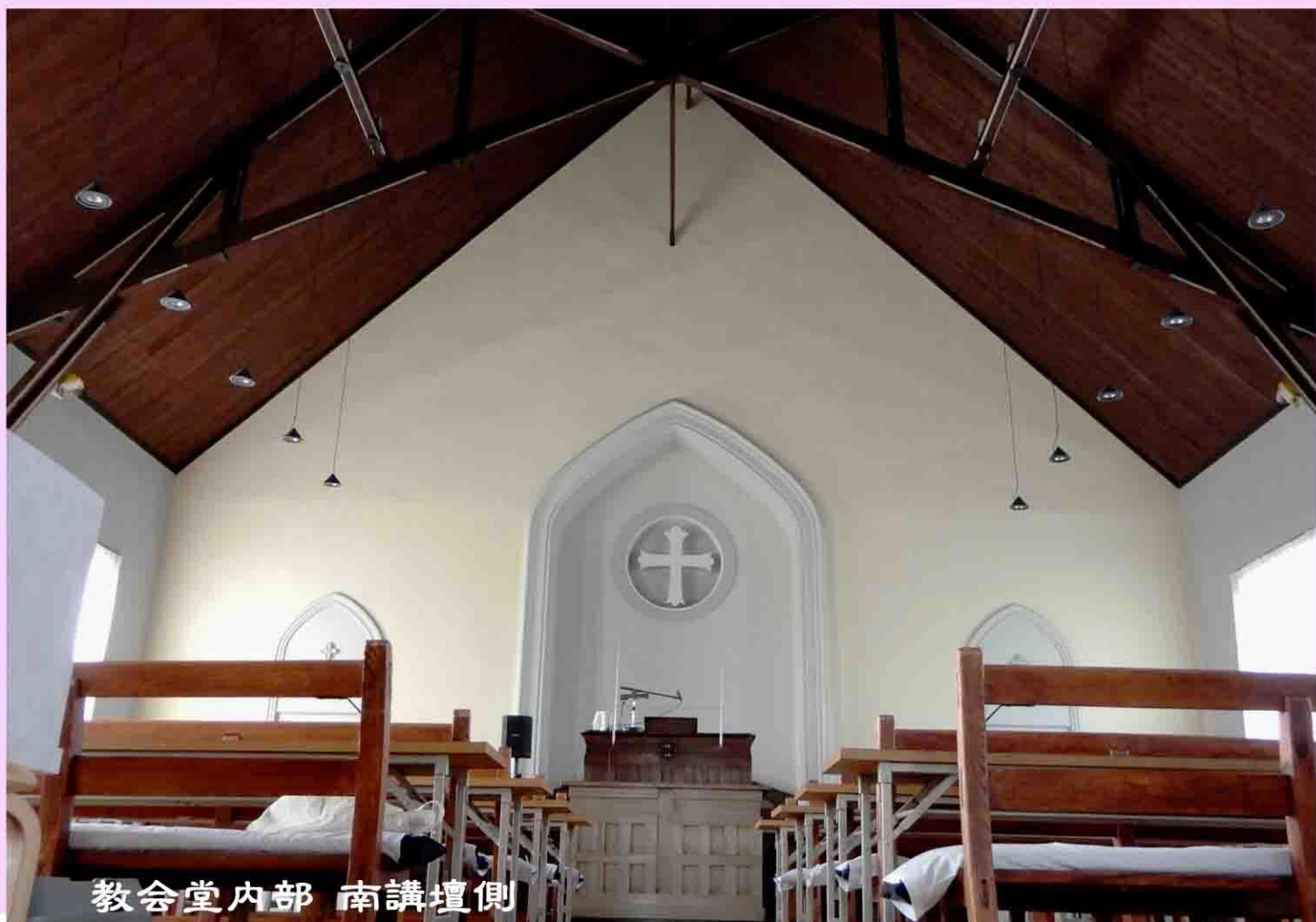
本教会は明治 10 年（1877）に桐生地方で最初に創立されたキリスト教（新教）教会であり、教会堂は創立当初のものではないが、市内に残る最古の教会建築として位置づけられる。また、昭和 22 年（1947）9 月のカスリーン台風による浸水被害などを経て現在に至るまで教会及び信者により一貫して大切にされてきた経緯があり、保存状態は良好である。建物は教会堂内部にステンドグラスや精緻な彫刻などの華やかな装飾は施されていないものの、講壇や長椅子など当初の教会家具を大切に使用し、礼拝を行うための慎ましやかで荘厳な空間が作り出されている。

桐生市のキリスト教は、地域で最初のマニファクチュアであった明治 14 年（1881）創業の「成愛社」においてロシア正教、明治 38 年（1905）設立の「堀祐織物工場」では本教会の長老であった堀祐平氏が新教（プロテスタント）の教えである博愛主義を社員教育に用いるなど織物産業の近代化とも結びついている。明治時代以降、桐生市では産業の繁栄を背景に宗教も含めて急速に近代化が進んでおり、桐生基督教団桐生教会教会堂はその一面を現代に伝える貴重な建物である。

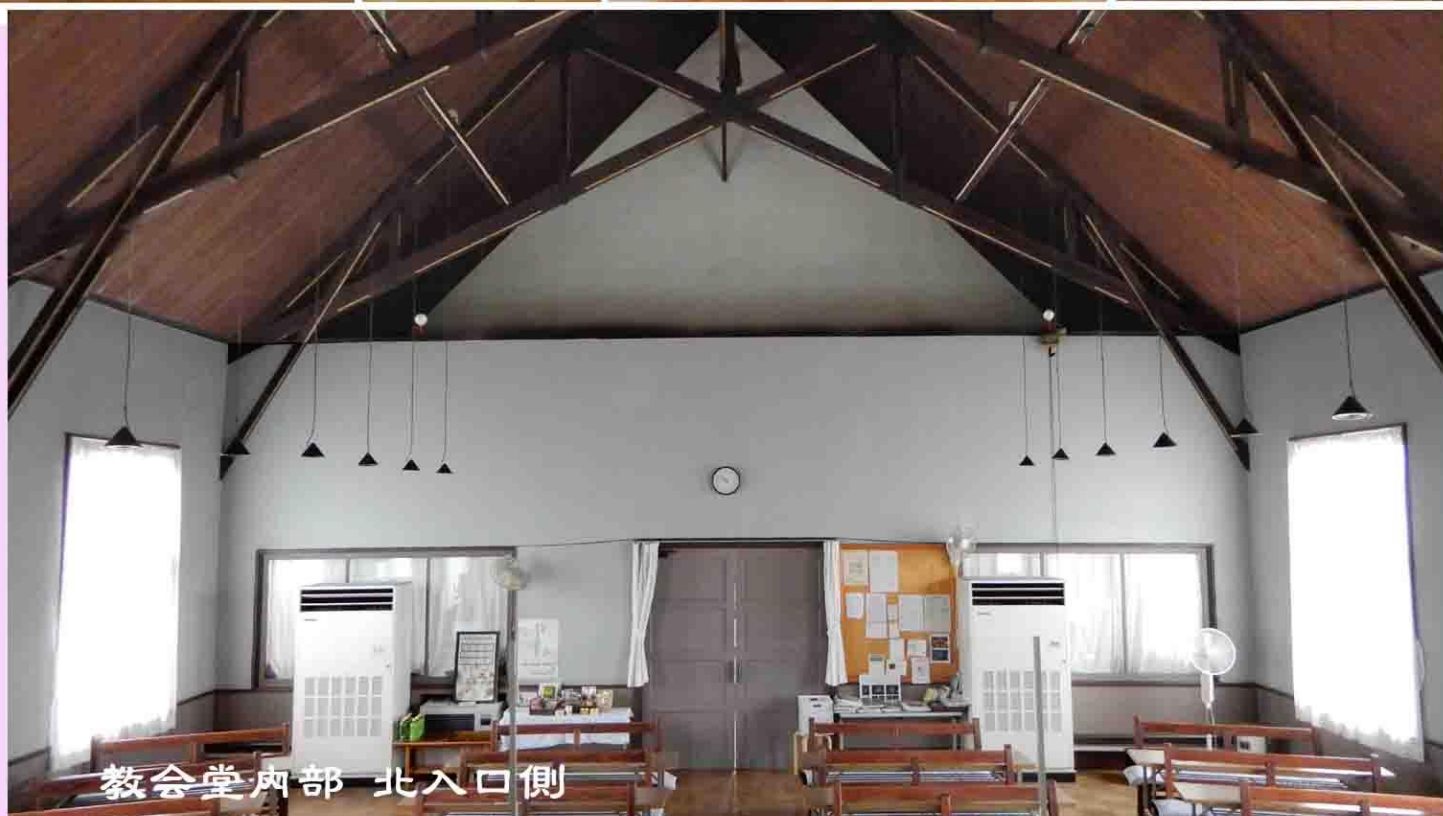
なお、本教会の周辺は市道および市道に接する駐車場であり、建物全体が望みの範囲にある。

【参考文献】『教会百年史』日本基督教団桐生教会 昭和 53 年（1978）発行 ※建築年代及び改築・改修工事（昭和 5～46 年まで）、桐生教会事業完成感謝文集『わが酒盃あふるるなり』

日本基督教団桐生教会教会修復委員会 平成 4 年発行 ※平成 4 年改修工事



教会堂内部 南講壇側



教会堂内部 北入口側